

# 今後の富士登山を考える

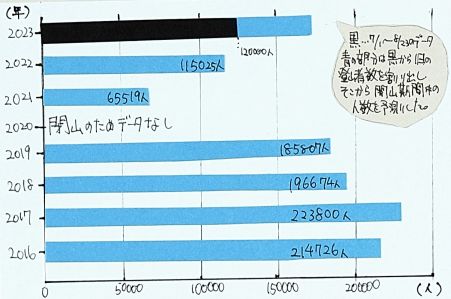
今年よく富士山についてのニュースが報道されている。その中で、富士登山の注意喚起がされているのだが、具体的にどのような現状があるのかわかりたいと思い、グラフを用いて調査した。ニュースでよく使われる登山者数、軽装登山、弾丸登山の3つの言葉に注目して調べてみた。  
今回は富士山の登山道の一つである吉田ルートに絞って調査する。

吉田ルートの特徴  
山梨県唯一の富士山登山道で山小屋が16軒あるコースのため、登山者数が4ルート中最多となっている。首都圏からのアクセスも良く、各山小屋から御来光が見られることも魅力的だ。

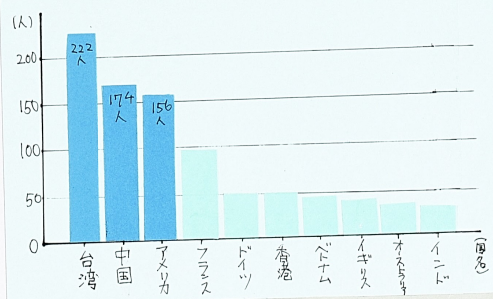
## 登山者数

今年、行動制限のない富士登山が人気ということもあり、登山者数はコロナ前に戻っていく予想だ。また、土日の登山者数は平日よりも1.5~3倍ほどに増加し、休日の人口管理が大変だと思われる。その一方で外国人は平日に比べて富士山を訪れているという点は意外だった。

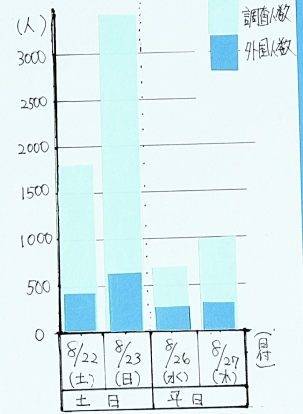
## 富士山登山者数(7/1~9/10)



## 富士山を訪れた外国人の国別人数

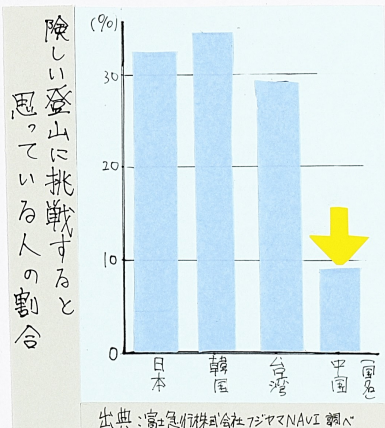


## 土日と平日の外国人の割合

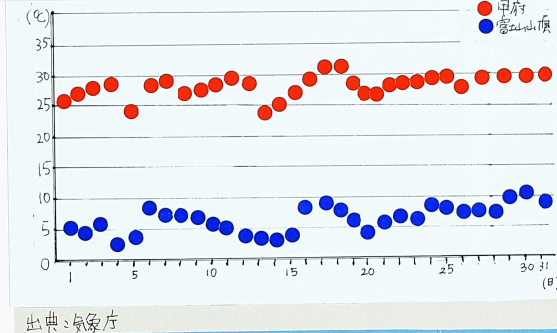


## 軽装登山

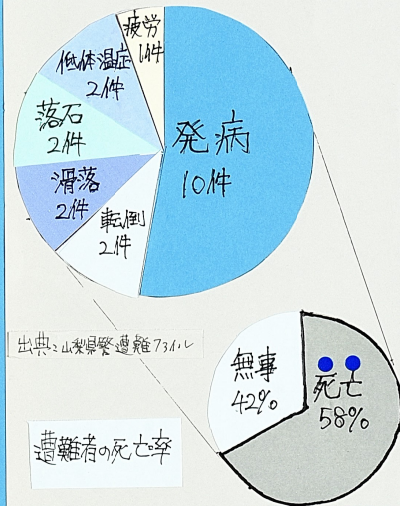
今回の調査で、富士山が危険な所と認識している人は日本でも約三分の一、中国に限っては7%と低い数値だった。また、予想外だった。甲府と富士山は20℃差と、甲府にいた方が涼しいお宝登山道にあり、暑いと思ってしまう山頂に行くことはとても危険なことだ。感じた遭難件数は想像より多くはなかったが、死亡率は予想外だった。



## 甲府と富士山山頂の平均気温(2023年7/1~7/31)



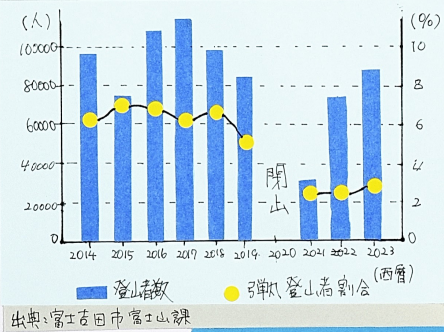
## 富士山で起きた遭難件数(2014年7月~2023年7月)



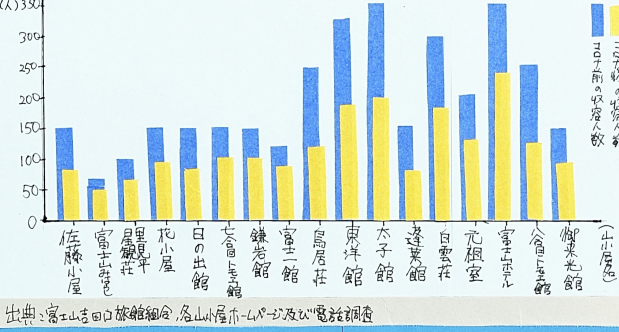
## 弾丸登山

今年、コロナ前よりも弾丸登山の割合が増え、コロナ前の時の割合を維持できている。山小屋の収容人数では、自分の想像で20~30人ほどの減少だと思ったが、41.8%も減っているとはまた驚かされた。

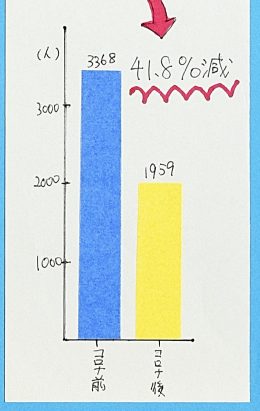
## 登山者数と弾丸登山割合(過去10年間7/1~8/10)



## 各山小屋のコロナ前と後の収容人数



## コロナ前と後の山小屋収容人数まとめ



## まとめ

ニュース「弾丸登山はしない方がいい」と言っているが、報道の裏面には大きく弾丸登山者の割合を増らすことのできた。SNS等を用いた登山に対する価値観が海外にも呼びかけている時にしどろもどろだ。また、登山者数での規制は簡易だが、事前には規制の連絡があると思われた。個人としては5合目で装備の準備を済ませることは必要だとされている。今回の調査で山小屋の収容人数は減少したがSDGsやマウンテンなどの問題も考える必要がある。ここで自分の意見と述べたが自分が望む富士山の未来は安全安心に日本一の登山を楽しめる環境を追求することが第一だとこの調査を通じて分かった。